

銀杏

発行所

〒792-0835
新居浜市山根町8番1号
曹洞宗瑞應寺専門僧堂
編集発行人 村上 徳 存
電話(0897)41-6563
FAX(0897)40-3127

毎月1日発行
(振替 01330-2-31918)
瑞應寺
印刷所 東田印刷株式会社

碧巖録物語独語【八】

後堂 門 原 信 典

「普照の序」⑦
「大匠に逢わずんば、焉んぞ玄微を悉さん。」

よほど勝れた指導者が現われて来ない限り、この雪竇禅師の玄微（奥深い微妙な処）は味わえない。大匠は、大宗匠の事、立派な禅の師匠。「行解相応する、これすなわち正師なり」修行した事が身心に染み込んで、教えと一つになる。そういう修行の満ちた人でないと、この雪竇禅師の教えを説くことは出来ないであろう。

【粵に佛果老人有り】

幸いにここに佛果圓悟克勤禅師がおられた。「老」というのは、老練という熟語もあるように、佛道に熟練の師、尊称。

徽宗皇帝（二〇八二〜一二三五）より

佛果という禅師号を賜ります。

【碧巖に住する日、学者迷いて

請益するに、老人惑んで以て慈を垂れ。」

圓悟禅師が夾山靈泉禅院の碧巖と云う部屋に住されていたときに、多くの修行者達が、この雪竇禅師がお示しの百則の詩（頌古）がわからないと言って色々質問してきた。そこで圓悟禅師が大慈悲心をもって雪竇禅師の頌古百則を提唱（講義）された。【淵源を剔抉し、底理を剖析す】淵源は大法の源、このお示しの狙いは何か、その根源から説明された。

剔抉はえぐること。この頌古の大切なところをえぐりだして、真実をさらけ出された。底理は、底に隠れている真理。剖析は、解剖し分析する事。

【当陽に直指し、豈に見地を立せんや】

当陽は日の当たるところ。明るくハッキリしている。つまり真実が丸出し。圓悟禅師が仏法をハッキリと直接私達に示してくださいっている。それは私達の思っている見聞知識を超えている。

【百則の公案、頭より一串に穿ち来たり、】

圓悟禅師はこの百則の公案（佛道修行の指針）を一気に貫くように示されている。一貫しているものはもちろん坐禅です。【二隊の老漢を次第に捻將て按過す。】

按過は、罪過を調べ、罪状を尋問する事。細かく調べる。

つまり仏祖方は我々を佛法に、そして坐禅に引き入れる大罪人、全て圓悟禅師から一つ一つ点検されるであろう。

この表現は最近になってよくわかります。「わしは師匠に騙されてお坊さんになった」と、嬉しそうに話される先輩がいっぱいいます。佛法に引き入れて、私のわがままが通用しなくなつて、身動き出来なくなるのです。

坐禅は眠い、足が痛い。ジツとしているのは辛い、それでも坐るしかありません。誰がこんな道に引きずり込んだのでしょうか。【須らく知るべし、趙壁は本と瑕類無く相如謾に秦王を誑かすことを。】

趙壁の故事は正法眼藏隨聞記、從容録第二則にお示しですが、中国の戦国時代（紀元前四〇三〜紀元前二二一）の史記にあるお話です。壁は、通常翡翠で出来たドーナツのような円盤状の宝玉、中央の穴の径が半径よりも小さい場合を壁と言うそうです。

趙壁は、中国の春秋時代（紀元前七七〇〜紀元前四〇三）楚の国の卞和という人が皇帝に差し出した璧です。その時は原石でまだ磨かれていませんでしたが、やがて天下の名宝となり、「和氏の璧」と云います。

戦国時代に趙の恵王がこの璧を手に入れると、秦の昭王が十五の城（城壁で囲まれた町）と交換しようとして申し入れたので「連城の壁」と云われました。美しくだけではなく、暗闇では鈍く光り、置いておくだけで夏は涼しく冬は暖かく、虫よけにもなつたと言われます。

趙の国の藺相如という人がこの璧をもつて使者として出かけ、秦の昭王に献上しました。昭王は大いに喜んだけれど、交換するはずのお城の話は一向に出てきません。初めから城を渡す気はなかったのです。それを見抜いた藺相如は一計を案じます。「実はその璧には、すぐには見つけれない小さな傷があります。それを教えましょう」そう言つて璧を取り戻すと「あなたにはこの璧と城を交換する気がないようだ。私もこのまま生きて帰してもらえとは思わん。恵王の使者として来た以上約束が果たせないなら、わしの頭もこの璧と一緒に柱にぶつけて叩き割つてやる。どうだ。」と迫ります。

この時、藺相如の髪の毛は怒りのあまり逆立ち、帽子をかぶっているかのようでした。この様が後に「怒髮天を衝く」という故事成語になり、傷など無かつたのですが、無事に璧は趙の国に帰ってきました。これを「完璧帰趙」と云い「完璧」の語源ともなつたお話です。

圓悟禅師様が雪竇禅師のお示しを説いてくださるのは、ちょうど藺相如と云う人が、趙壁を取り戻したように、ありとあらゆる手段を用いて騙してでも、迷いの中にある私達に、真実の道を命がけで示してくださるようなもの。

大匠は、ある時は行いで、ある時は言葉で、そして私たちの生命で真実に導いてくださいます。

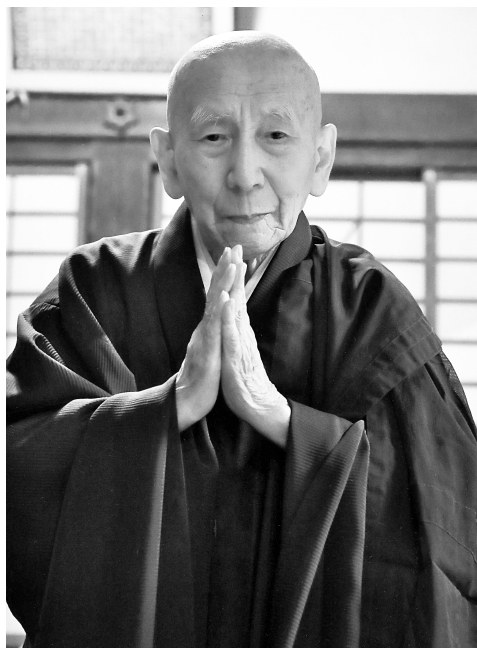
去る七月二十五日、大匠栖崎通元老師は、私達に寂を示され、教化の場を遷されました。

（続く）

謹告

大本山永平寺贈西堂
当山三十世重中興

大慈通元大和尚儀



遺偈

胡說乱道 九十七年
臨行一著 如今安然

去る七月二十五日午後九時四十四分遷化されました。
密葬儀は二十八日午前十時より営弁致しました。
本葬儀は卒哭忌に当たる十一月一日に瑞應寺に於て、執り行われます

世壽九十七歳

七月廿七日午後六時 大夜諷經

岡山県 高林寺 門原信典 老師

七月廿八日(朝課罷)起龕佛事

岡山県 高林寺 門原信典 老師

七月廿八日 密葬儀

奠湯佛事 愛媛県 正覚寺 中野宣明 老師
奠茶佛事 愛媛県 慈眼寺 大隆大宗 老師
秉炬佛事 長崎県 暗臺寺 齋藤芳寛 老師



大慈通元大和尚(雅号 慈航)密葬儀秉炬師法語

久在人間行願長 随波逐浪棹慈航
孤帆掛罷向何処 南国瑠璃北斗藏

恭惟新般涅槃 大本山永平寺贈西堂 大慈通元大和尚真位
当山三十世重中興

宗門古錫 禅海津梁

其初 掛錫於永平寺叢林 探索洞上深潭蘊奧
嗣法於長福隆道叟 能破仏祖屋裡禅床

乃知参学当初

相見恵光老師 親侍膝下

了得洞上祖意 永慕道光

是以 豎拂於溪寿門頭 運水搬柴振手腕

啓蒙於瑞應内外 潜行密用斷鉄腸

内傾心仏国僧堂人材育英 利生済人振空手

外尽力光幼稚園教導保育 垂慈澍愛潤塵郷

加之 臨永平嶺頭 委任講師布教部長

其德燦而 拔標榜

出布教界上 選出教化施設統監

其功卓而 示力量

更見 愛宗之思 被囑堂長師家 提唱枢要

護法之志 被推祖山顧問 発揚瑞香

允是 閱去世寿九十七年行持 画禅風流随処潤縞素

挑来法臘八十四歳宝印 入木沙汰鑑機恢祖綱

山僧辱格段之法愛 五十稔蒙親密之鉗槌

那得忘豈因依命 今秉炬火遮莫

老大和尚 即今

抛擲諸縁 任鞋履遊化大千底之一著

如何拳揚 咦

生死岸頭留不住 縦遊願海入斜陽

伏希照鑑容納



有ること難し

遺弟 金岡潔宗

東堂老師は、今年二月二十七日に九十六歳の誕生日を迎えられ、食事も少しずつですが、粥や流動食を召し上がられていました。

東司にも歩行器にて行っておられました。五月十二日に肺炎をおこし愛媛県立新居浜病院に入院されました。肺炎も落ち着き、五月二十六日には、瑞應寺の近くの林病院へ転院いたしました。コロナ禍で面会もできず様子を看護師さんに伺うと、「ベッドに座り窓から見える山を見ながら『あそこに瑞應寺がある』とおっしゃっています。」とのことでしたが、七月二十五日お昼過ぎ、病院で様子を伺うと「今日は、目を閉じてお話しもされません、良くないです。」とのことでした。その日の夜、病院から電話があり駆けつけましたが、先生は、「眠るようにお亡くなりになりました。」と話されました。老師のお顔は穏やかで本当に眠っているようでした。

最後のお別れをする時、山口県から来られたご寺院さんが、「観音様かお地藏様のようなお顔ですね、菩薩様です。」とおっしゃっておられました。

老師は、皆様もご存知のように、いつも「おい、おい」と呼び止め細かい所までご指導下さいました。ここ二三年前からは、いつも「ありがとう、ありがとう」とおっしゃって、最後の最後まで私たちに「有ること難し」とお示し下さいました。

合掌

テレホン法話 〇八九七 四一〇〇三三

禅のたより



人と人の心の繋がり

近年は新型コロナウィルスの世界的な感染拡大により多くの方々の尊い命が失われました。先月は安倍元首相の悲しいニュース等、今年に入ってから国際紛争や内戦のニュースを見る事も多くなりましたが、このような様々な社会問題乗り越える為に私たちはどのような生き方、一仏両祖のみ教を守っていけば良いのでしょうか。争いのない幸せな世界になる為にはどのようにすれば良いのでしょうか。それぞれ沢山の思いがあると思います。さて、8月といえばお盆があり沢山の方との繋がりが生まれます。そういった中で、相手を思いやる気持ちの大切さを感じることが多いのではないのでしょうか。

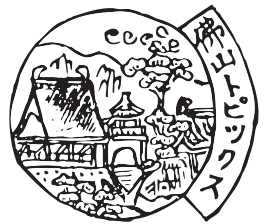
み教えの中に「同事」という教えがあります。分かち合い、支えあい、思いを重ねあつて、人と人との繋がりを深めていくという教えです。修証義というお経の中に「同事とは不違なり

自にも不違なり、他にも不違なり」と出てまいります。私も他人も同じ存在で変わりが無いということです。私たちは知らず知らずのうちに自分と他人との違う所を探して区別してしまいがちです。それでは到底お互いを思いやる幸せな関係にはなりません。本当に残念な事ではないでしょうか。性別、国籍、見た目が違えば自分と違う所が見えてくるかもしれません。しかし同じ人であつて同じ命ある人間なのです。他人を自分だと思つて接する思いが大切です。優しさを持つてまた思いやりのある言葉を忘れないようにご家族、親戚、近所の方々又はこれから出会う方々と接してみませんか。それが「同事」です。

私も貴方も一緒です。ただそれだけの事です。私たちは同じ時間を生きています。ならばその時間が幸せな時間になるように生きていきたいものなのです。

瑞應寺専門僧堂直録 楠本剛大

令和四年八月一日〜十日



大施食会

八月二日(火)、恒例の大施食会が山内大衆台山にて厳修された。

住友展臺

八月十日(水)、当山西側へ安置される別子銅山殉職者、流亡者慰霊碑等で村上山主導師のもと盆供養を厳修された。

開山忌講演会について

九月二十一日(水)・九月二十二日(木)に予定しておりました開山忌講演会について、新型コロナウイルス感染拡大により延期となりました。ご了承下さい。

八月の日鑑

- 一日 祝禱
- 二日 大施食会
- 七日 日曜参禅会
- 十日 住友展臺
- 十五日 祝禱・略布薩
- 十六日 水施食
- 十八日 観音講・勉強会
- 廿一日 首座法戦式・略布薩

九月の予定

- 一日 祝禱
- 四日 日曜参禅会
- 六日 参玄会(八日迄)
- 十四日 土地堂念誦
- 十五日 祝禱・小参・人事
- 十八日 観音講・勉強会
- 廿一日 開山忌速夜
- 廿二日 開山忌正当
- 廿三日 寶篋印塔供養
- 廿八日 両祖忌速夜
- 廿九日 両祖忌正当
- 卅日 略布薩



鐘声

墓経を終え、駐車場に向かつて歩かれるお檀家さんを見送っていた時のこと。

小学校高学年くらいのお子さんが急に立ち止まり、くるとこちらに向きを変えられました。「どうしたのかな」と思い見ていると、そのお子さんは家族が車に乗ったのを確認した後、合掌し背中をピンと伸ばして「ありがとうございました」と大きな声で言われました。その姿の美しさ、その声のまっすぐさに、心を打たれ、涙が出そうでした。

私が合掌している姿、私が発する言葉は、あのお子さんのように美しくまっすぐだろうか? 日々、自分を見つめ直しながら、一つひとつのことに丁寧に取り組んでいかなければならないと、改めて思いました。

今夏首座